

研究ノート

教職実践演習に求められる課題と実際 — 実践事例からの一考察 —

古根川 円*1

キーワード：教職課程、教職実践演習、保育者、履修カルテ、学びの軌跡の集大成

1 はじめに

保育者をめざす学生が教職課程の最後に学修する科目が「教職実践演習」である。多くの養成校と同様に本学も学びの集大成として4年次後期に開講している。

教職実践演習は、2006（平成18）年の文部科学省中央教育審議会答申「今後の教員養成・免許制度の在り方について」¹⁾において全学年を通じた「学びの軌跡の集大成」として位置付けられるものと明記されている。保育者に求められる資質能力に関しては、これまでの答申においてしばしば強調されてきている。

短期大学で2011（平成23）年、四年制大学で2013（平成25）年より実践が始まった保育・教職実践演習は、保育者として最小限必要な資質能力を身に着けさせることを目的としている。2006（平成18）年の中央教育審議会答申は保育者に求められる資質能力について大きく4つ挙げている。①「使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項」②「社会性や対人関係能力に関する事項」③「幼児児童生徒理解や学級経営に関する事項」④「教科・保育内容等の指導力に関する事項」である。

さらに2015（平成27）年の中央教育審議会答申では、これからの時代を担う保育者に求められる能力として、「これまで教員として不易とされてきた資質能力に加え、自律的に学ぶ姿勢を持ち、時代の変化や自らのキャリアステージに応じて求められる資質能力を生涯にわたって高めていくことのできる力や、情報を適切に収集し、選択し、活用する能力や知識を有機的に結びつけ構造化する力などが必要である」²⁾と述べて

いる。つまり、養成校の養成段階において保育者になるために必要な最低限の基礎的・基盤的な学修を担保し、実践的指導力の基礎の育成、保育現場を体験する機会を設け、学生自身に自らの適正を考え、自己課題を発見し学修し続ける姿勢を培うことが求められている。

教職課程での学びを可視化し、自己課題を発見しやすくするために教職実践演習では、入学段階からそれぞれの学生の学修内容、理解度を把握する目的で「履修カルテ」の作成が求められている。

本稿では、教職実践演習で取り上げるべき内容について改めて吟味し、15回という限られた授業回数の中で教職実践演習のあり方を考える機会として考察を行いたい。

2 研究の方法

2.1 調査対象とするテキスト

本学図書館に収蔵している図書より「保育・教職実践演習」に関する図書を選びその内容を検討することにした。「学びの軌跡の集大成」と位置付けられる教職実践演習で、取り上げるべき内容を各テキストの章立てで見出しから検出を行った。図書館蔵書のテキストを対象にした理由は、歴代の科目担当者が参考文献等で使用したテキストが必ず置いてあることから、本学学生も目にすることや手にすることがあり、本学が考える教職実践演習の方向性に近いと考えたからである。本学図書館蔵書のテキストは次の通りであった。

① 『保育・教職実践演習—保育理論と保育実践の手

*1 至誠館大学 現代社会学部

- 引き一』 大学図書出版 2022
- ② 『保育・教職実践演習 学びの軌跡の集大成を目指して』 光生館 2021
- ③ 『保育・教職実践演習 保育者に求められる保育実践力 第2版』 建帛社 2018
- ④ 『保育・教職実践演習－わたしを見つめ、求められる保育者になるために－』 ミネルヴァ書房 2017
- ⑤ 『保育・教職実践演習テキストノート 保育士・幼稚園教諭・小学校教諭をめざす私の“学び”のあしあと一』 ふくろう出版 2016
- ⑥ 『保育・教職実践演習 自己課題の発見・解決に向けて』 萌文書林 2016
- ⑦ 『ワークで学ぶ保育・教育職の実践演習』 建帛社 2014

以上、7冊からキーワード検出を行った。

2.2 テキストのキーワードから見えるもの

キーワード検出は目次の項目から行った。章立ての見出しにはキーワードとして検出されないが、本文には出てくる内容もあると承知しているが、今回は見出しのみを対象とし、比較検討を行った。(表-1) 検出キーワードを書き出し、各テキストの見出しに出現するかを表-1にまとめた。

全体からいえることは、まず全てのテキストで取り上げていた項目が3つあり、「保育者の資質能力」「保護者との関係構築」「現代的教育課題」であった。

教職実践演習の授業では、子どもに関する実践的なことに目を向けてしまう傾向が多いと思うが、保護者との関係構築や幼保小連携など、現代的課題がすべてのテキストで取り上げられていたことは、現代社会を反映し、保育現場の問題として重要であることを示唆しているといえる。子どもを取り巻く社会が目まぐるしく変化している昨今、保育現場だけではなく家庭での子育て、家庭での子どもの様子を保護者と連携を取

りながら把握していくことは、子どもの健やかな心身の発達に不可欠であるといえる。また、現代的教育課題の内容として小学校教育との連携、児童虐待などが挙げられていた。

2番目に多い項目は、「教職実践演習の位置づけ」「職場・保育者の役割」「子ども観」であった。「教職実践演習の位置づけ」については、「学びの軌跡の集大成」として位置づけられる教職実践演習とは何かについて、教職課程での位置づけを明らかにしていた。「職場・保育者の役割」「子ども観」についても、保育者をめざす「学びの軌跡の集大成」として、最終確認を行う項目として納得の配置であった。

続いて3番目に多い項目は、全20項目中6項目にわたっていた。「教育実習振り返り」「模擬保育・グループでの学び合い」「ロールプレイング」「履修カルテ」この4項目は教職課程の授業内で行われる事項である。「教育実習振り返り」に関しては、教育実習では事前・事後指導を行うことが必須であるが、教職実践演習で再度振り返ることで、自己課題を見つけ最終学年の後期半年間で補填し、保育者として巣立ってほしいという意味を感じる。「模擬保育・グループでの学び合い」「ロールプレイング」は、実践的な課題に沿ってロールプレイやグループワーク、模擬保育を行うことの大切さを多くのテキストが取り上げていた。このような方法を行うことで、子どもの視点、保護者の視点、他の保育者の視点など、自分以外の人の立場や気持ちに改めて気づくことができるようになる。このようなグループワークは、卒業後保育現場に出た時も、保育者間のやり取りの礎になるであろう。子どもの発達は、今その時だけではなく前年度から引き継がれ、家庭での育児も大きく関わっている。様々な視点の意見を交流させてこそ、個々の子どもの支援に繋がっていくものと考えられる。「チーム学校」のように、チーム保育者となって協働することの大切さを、学生のうちから感じられる機会の提供となることが期待される。そして「履修カルテ」に関しては、今までの他の授業

表-1 テキスト内に取り上げられた検出キーワード

分類	検出キーワード	対象テキスト						
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
養成校でのあり方	教職実践演習の位置づけ	○	○	○		○	○	○
	教育実習振り返り	○			○	○	○	○
	模擬保育・グループでの学び合い	○		○		○	○	○
	ロールプレイング	○		○		○	○	○
	事例研究			○		○		○
	履修カルテ	○	○			○	○	○
職務内容	保育者の資質能力	○	○	○	○	○	○	○
	職場・保育者の役割	○	○	○		○	○	○
	クラス担任		○				○	
実践力	子ども観	○		○	○	○	○	○
	クラス経営	○	○	○			○	
	特別支援 特別な配慮を必要とする子ども	○	○	○		○		○
	保護者との関係構築	○	○	○	○	○	○	○
	地域子育て支援	○	○	○			○	○
	健康、食育・アレルギー	○	○				○	
	安全・危機管理		○			○		
専門性	教材研究		○			○	○	
	保育記録		○	○			○	○
	研修・リカレント教育	○	○			○		○
	現代的な教育課題（幼小連携）	○	○	○	○	○	○	○

と異なり、教職課程の初期段階から毎学年ごとに学修状況を書き込み、最終学年で行う教職実践演習まで学びの過程を記録し3年半分の学びを振り返り、自己課題を発見していくものとなる。履修カルテは個別の教職科目の集合体として、学生を先生として世に送り出せるように成長過程、課題発見、自己啓発としての役目を担っているといえる。残る2項目は「特別支援・特別な配慮を必要とする子ども」「地域子育て支援」に関することであった。どちらも、現代的教育課題といえるものであり、保育者をめざす学生が様々な多様性に対応できる保育力を持ち、地域の子育て支援について理解し尽力することで、全ての子どもの健やかな育ちを支援できる人材として社会に出ることの大切さを示唆している。

3 実践の検証

至誠館大学の教職課程では、幼稚園教諭および中学校・高等学校の保健体育教諭を養成している。幼稚園教諭養成の「学びの軌跡の集大成」となる教職実践演習（幼）のシラバスを、表-1 で検出したキーワードと比較し検証を行った。検出したキーワードと一致した箇所には下線を引いた。（表-2）

教職実践演習（幼）の授業概要・目的（至誠館大学シラバスより）

① 履修カルテを使って、幼稚園教諭として必要な資質や能力（知識・技術）が身につけているか自己分析を行い課題や不測部分を明確化する。

履修カルテ【分類】養成校でのあり方 【キーワード】履修カルテ
資質や能力（知識・技術）【分類】職務内容 【キーワード】保育者の資質能力

② 模擬保育実践やICT等を活用して改善を図る。

模擬保育実践【分類】養成校でのあり方 【キーワード】模擬保育・グループでの学び合い

③ 子ども主体の保育プログラム（3年間）の作成を通して、幼稚園教育全体を見通せる保育者としての資質向上をめざす。

子ども主体【分類】実践力 【キーワード】子ども観
保育プログラム【分類】専門性【キーワード】教材研究

資質向上【分類】職務内容【キーワード】保育者の資質能力

教職実践演習（幼）の授業計画

毎回の授業計画にキーワード（キーワードに類似するものも含む）が含まれているかを検証した。（表-2）検証の結果、テキストから検出したキーワード20項目のうち、シラバス内で該当すると考えられるキーワードは8項目であった。（教職実践演習の位置づけについては、授業第1回目に説明を行うためキーワードとして数えた）8項目は、

- ・教職実践演習の位置づけ
- ・グループでの学び合い
- ・履修カルテ
- ・保育者の資質能力
- ・職場・保育者の役割
- ・子ども観
- ・教材研究
- ・現代的教育課題（幼小連携）

であった。

4 教職実践演習における今後の課題

テキストからの検出キーワードと比較すると、子ども理解や子ども観に関すること、保育実践に繋がる教材研究等は盛り込まれていたが、「保護者との関係構築」については授業内で触れる機会を設けていないことが

表-2 至誠館大学の教職実践演習（幼）シラバスを検証

回数	授業計画	分類	キーワード
1	幼稚園教諭に求められる資質・能力 (グループディスカッションを含む)	職務内容 養成校でのあり方	資質能力 グループでの学び合い
2	履修カルテによる自己分析 (改善及び向上させるべき知識・技術の明確化)	養成校でのあり方	履修カルテ
3	「保育内容の指導法」に関する事項の改善 ① 自己の学びを振り返る	専門性	教材研究
4	「保育内容の指導法」に関する事項の改善 ② 改善計画と実践	専門性	教材研究
5	「保育内容の指導法」に関する事項の改善 ③ 成果報告書の提出	専門性	教材研究
6	「幼児理解」・「教育の基礎的理解」に関する事項の改善① 自己の学びを振り返る	実践力 職務内容	子ども観 職場・保育者の役割
7	「幼児理解」・「教育の基礎的理解」に関する事項の改善② 改善計画と実践	実践力 職務内容	子ども観 職場・保育者の役割
8	「幼児理解」・「教育の基礎的理解」に関する事項の改善③ 成果報告書の提出	実践力 職務内容	子ども観 職場・保育者の役割
9	「育みたい資質・能力と幼児理解に基づいた評価、および子どもたちの興味や関心を高める教材研究」に関する事項の改善① 自己の学びを振り返る	実践力 専門性	子ども観 教材研究
10	「育みたい資質・能力と幼児理解に基づいた評価、および子どもたちの興味や関心を高める教材研究」に関する事項の改善②改善計画と実践	実践力 専門性	子ども観 教材研究
11	「育みたい資質・能力と幼児理解に基づいた評価、および子どもたちの興味や関心を高める教材研究」に関する事項の改善③成果報告書の提出	実践力 専門性	子ども観 教材研究
12	3年間の保育プログラム立案① 幼稚園教育要領の5領域や就学までに育てたい10の姿から項目を選び3年間のプログラムを考える	専門性	教材研究
13	3年間の保育プログラム立案②幼稚園教育要領の5領域や就学までに育てたい10の姿から項目を選び3年間のプログラムを考える (小学校との連携も含める)	専門性	教材研究 現代的教育課題
14	3年間の保育プログラム立案③ プログラムの完成、提出	専門性	教材研究
15	演習のまとめ 成果発表 (他者の発表から学ぶ)	養成校でのあり方	グループでの学び合い

(表内の下線は筆者加筆)

明らかになった。教育実習中も保護者と関わることは挨拶程度だと考えられる。

しかし、卒業後保育現場に就職すれば、保護者との関係は日々の保育から切り離せないものとなる。保育

現場に出る前に、保護者との関係構築について学ぶ機会を与えることは喫緊の課題だと感じた。また、「特別支援、特別な配慮を必要とする子ども」「地域子育て支援」についても、教職実践演習で触れることがない項

目であった。教職課程の他の授業に任せるだけではなく、「学びの軌跡の集大成」として再度確認する機会を設定する必要性を感じた。最後に模擬保育、ロールプレイングについても、各領域の保育内容、保育内容指導法などで取り上げられているが、教職実践演習でも取り上げることで、子どもの視点、保護者の視点、他の保育者の視点など、自分以外の人の立場や気持ちに気づくことの大切さを再確認する機会としたい。教育実習を終えた4年生後期だからこそ、気づくことができる他者の立場や気持ちについて考える場にするのが肝要であると考えている。

5 おわりに

教職課程における保育者養成での教職実践演習についてテキストのキーワードから、授業で学生に何を伝えていくべきかの検証を行った。世の中に出版されているごく一部分のテキストからではあったが、新たな知見を得ることができた。

保育者になるために必要とされる要素は多岐にわたる。そのために文部科学省が定めた規定があり、各養成校がそれに則り履修規定を設定している。保育者になるために、子ども理解、子どもへの対応、保育技術など保育室でまず必要となる知識や技術を教え、実践を重ねることを優先しがちであるが、他にも子どもを取りまく環境である保護者との関係、地域子育て支援、安全・危機管理、クラス運営、食育・アレルギー、特別支援・特別な配慮を必要とする子どもについて、幼小連携に代表される現代的な教育課題など保育現場で必要とされる知識、技術が多くある。

教職実践演習が「学びの軌跡の集大成」と位置づけられるのであれば、それらのことを今一度考える機会を設け、保育者として保育現場へ出る責任と覚悟をもった学生の育成が必要であると考えている。

[引用文献]

- 1) 文部科学省中央教育審議会答申（2006）『今後の教員養成・免許制度の在り方について』
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/tou shin/attach/1337016.htm（アクセス日 2023.11.10）
- 2) 文部科学省中央教育審議会答申（2015）『これからの学校教育を担う教員の資質向上について～学び合い、高め合う教員育成コミュニティの構築に向けて』
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/tou shin/1365665.htm（アクセス日 2023.11.10）

[参考文献]

- 1) 横山文樹・駒井美智子（2022）『新版 保育・教職実践演習－保育理論と保育実践の手引き－』大学図書出版
- 2) 神長美津子・田代幸代（2021）『保育・教職実践演習 学びの軌跡の集大成を目指して』光生館
- 3) 小原敏郎ほか（2018）『保育・教職実践演習第2版』建帛社
- 4) 寺田恭子・榊原志保・高橋一夫（2017）『保育・教職実践演習－わたしを見つめ、求められる保育者になるために－』ミネルヴァ書房
- 5) 田中卓也ほか（2016）『保育・教職実践演習テキストノート 保育士・幼稚園教諭・小学校教諭をめざす－私の“学び”のあしあと－』ふくろう出版
- 6) 生野金三・井口眞美・田中正浩（2016）『保育・教職実践演習 自己課題の発見・解決に向けて』萌文書林
- 7) 増田まゆみほか（2014）『ワークで学ぶ 保育・教育職の実践演習』建帛社
- 8) 文部科学省（2023）『教職課程認定申請の手引き（令和6年度開設用）』